



繪本通俗三國志

六編

五

21
221
55



61
55

東京
學校

中世



繪本通俗三國志六篇卷之五

目錄

孔明一擒孟獲

孔明二擒孟獲

孔明三擒孟獲

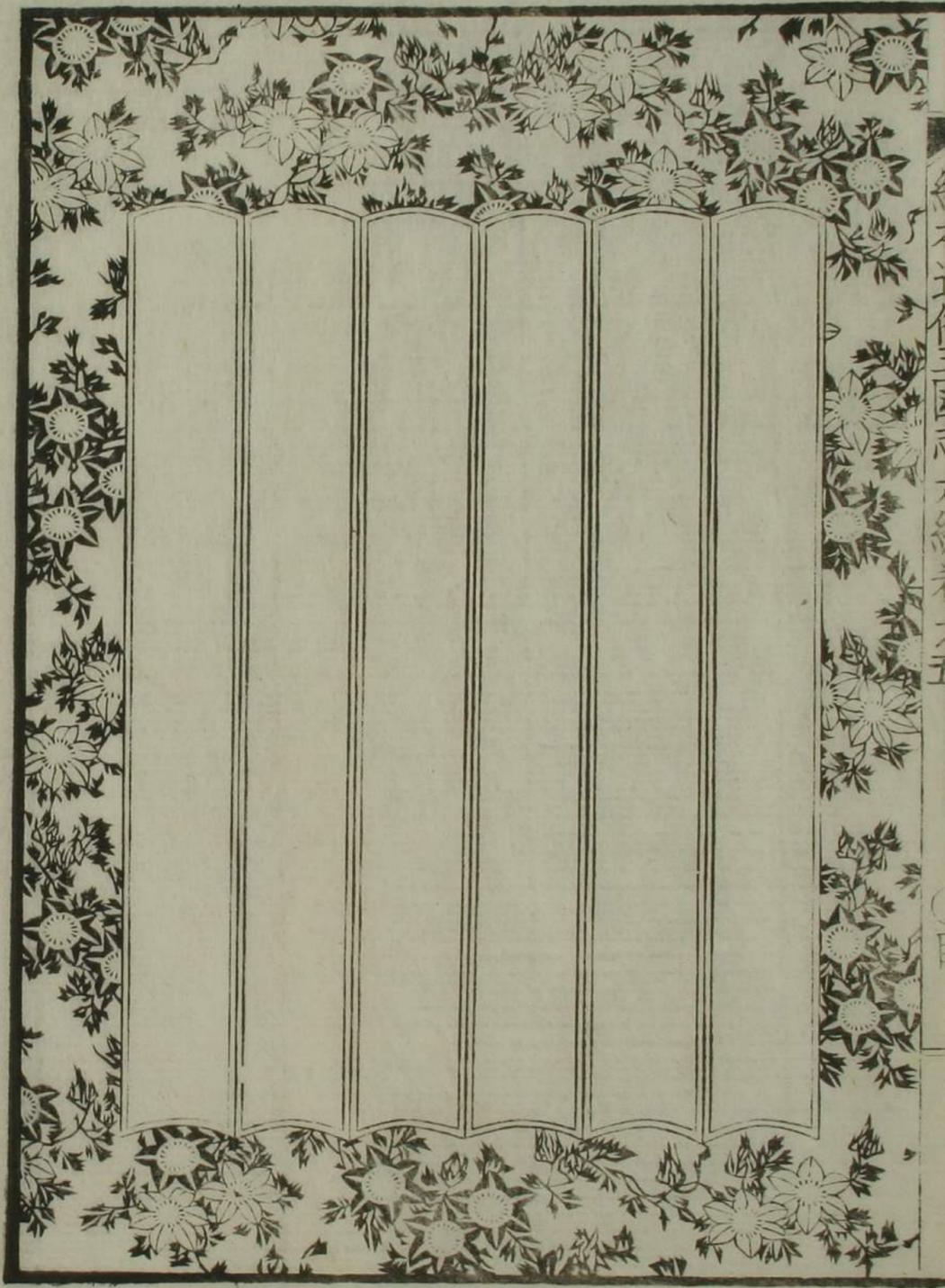
孔明四擒孟獲

繪本通俗三國志六篇卷之五

繪本通俗三國志六編卷之五

孔明一擒孟獲

去程孟益及とをむ平定しく永昌郡の圃ちの分ちり鮮太守
 王伉城を建て孔明をむえけむ孔明内へ入て問て曰御
 辺へはと人と力とあをせてまの小城を守りては王伉答てい
 く某かの城を落されどりし永昌不韋の人と呂凱字は奉平
 とのみの力あり孔明とあはち呂凱を呼て對面しととく
 く御辺へ永昌の高士ありとときけり今大軍をきてさきよ
 り南蛮國を平げんとちゆと志くなき計あらば教るるといひ
 けむ呂凱一卷の繪圖を出しと曰く某久く南蛮の王化の
 志なきふと愁ひ密に南蛮國へ人を遣し地理を察し繪



繪本通俗三國志六編卷之五

図を作らしむ名て平蛮指掌の図と号を。今丞相に見る。大なる幸あり。願わらば献らん孔明一書をりて限なく喜び卒に呂凱を行軍教授とて案内者と定め大軍をさそめて南蛮國へ打起けるるを忽ち天子勅使ありと報ドければ孔明中軍を精よく對面する馬稷素袍を被て入けし孔明の故を問ふ馬稷曰く某が兄馬良近比死せり。是ゆへ人の喪の服を被る。今天子某を勅して諸軍の酒を賜てて詔を生けし孔明拜し詔を賜て諸軍勢に分ち馬稷を留て物給し。是今大軍を引て南蛮を平せんとも御辺へうまると高見ある。願ひ聞んとしけし馬稷曰く某一言あり丞相をささぐりて夫南蛮國遠山

險しく容易く入らなきて特ぐ昔より王命を志たがも今日さよと破るといふも明日は又叛く丞相今大軍をひひる人必むと大功とあはるるのたけとも都の回りもひて後へ忽ち叛ひて虚と伺ふと害をあさんと謀らん若又尽く誅しく。蛮夷の種類を絶へ仁者の心にあらざる況やたゆみへ滅し難ららん夫兵を用るの道へんを攻むを上にし城を攻むと下とも心の戦ひを上にし兵の戦ひと下とも征へくると丞相さかのんと取伏せし恩を感し徳を懐て長く背ざるの計をまのひると云けし孔明長嘆して曰く御辺の高論よく肺腑を貫けりといふ。卒に馬稷とさそめて大軍を引て進發せよとのれ南蛮王子を獲

南蛮指掌の図と号を。今丞相に見る。大なる幸あり。願わらば献らん孔明一書をりて限なく喜び卒に呂凱を行軍教授とて案内者と定め大軍をさそめて南蛮國へ打起けるるを忽ち天子勅使ありと報ドければ孔明中軍を精よく對面する馬稷素袍を被て入けし孔明の故を問ふ馬稷曰く某が兄馬良近比死せり。是ゆへ人の喪の服を被る。今天子某を勅して諸軍の酒を賜てて詔を生けし孔明拜し詔を賜て諸軍勢に分ち馬稷を留て物給し。是今大軍を引て南蛮を平せんとも御辺へうまると高見ある。願ひ聞んとしけし馬稷曰く某一言あり丞相をささぐりて夫南蛮國遠山

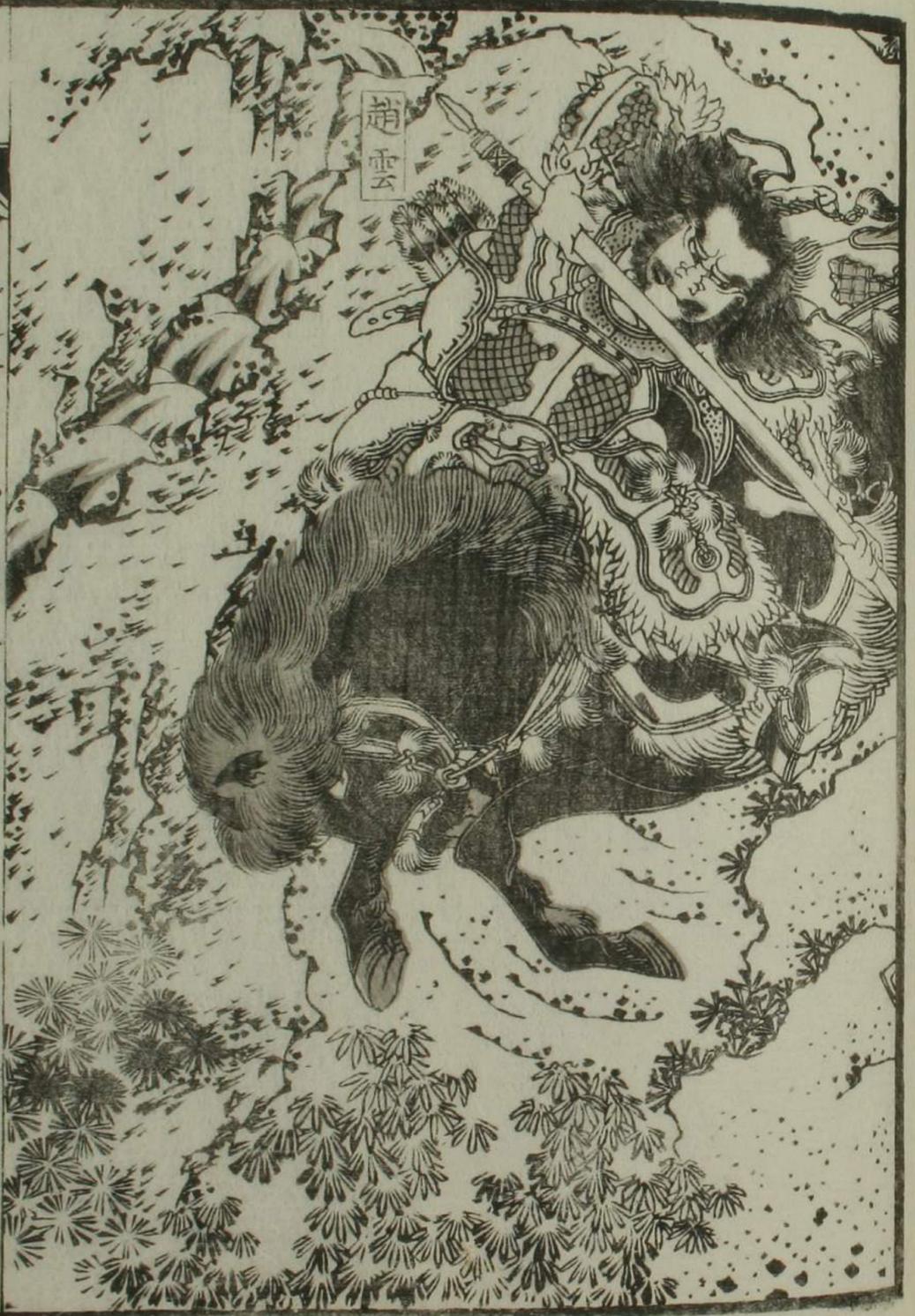
孔明が雍閬を平げて直に攻来る由をきいて諸將を
あつめて計とを議せり。三洞の元帥とて弟一金環三結弟
二董茶奴弟三阿會喃との令あり。共五六万の兵を領
し。元より孟獲が麾下の屬をその日尽く来りければ孟
獲をけり。今蜀の大軍が境を犯す。汝ホちんぞ早く来
告知せざる。金環三結とて其弟をくわ。真先駈て奴原を
踏破らしんと云けし。董茶奴阿會喃二人も先手を進んと
望み互に争く。已ざりけり。孟獲が曰く汝三人は。行ん
とせ。汝が志くらべ。三手を分きて打む。金環三結は中路に備
く。董茶奴と左に備へ。阿會喃と右にせり。各五万の勢を打
立し。下知し。けし。三人命を受け。生ぬけり。孔明は陣中にお

りて兵の手分を定る。乃ち介候の兵をせ来り。孟獲は三洞乃
元帥と三手を分けて寄来ると告げし。孔明諸將を集て
曰く。今南蛮の勢。三手を分けて寄きたる。乃ち趙雲魏延
を用ひんと。おれども彼二人へ地の利を志らむ。是の人も用ひ
がし。王平へ左備の敵を拒ぎ。馬忠へ右備の敵を拒げ。乃ち
又趙雲魏延を跡より進めて。汝ホちん力を添させん。今日兵
を調て。明日早天に出よ。いひけし。王平馬忠命を受け。
退出を孔明又張疑張翼を呼んで曰く。汝二人は。一軍
を領し。中路の敵となら。今日兵を整て。明日王平馬
忠と一同に打立。いひけし。二人計を受けて退出を。趙雲魏
延の日の軍を用ら。とせ。深く怒る。体も。く。たり。けれ



趙雲
金環三結
第一刺
首
勿

金環三結



趙雲

孔明が白く。まはし汝を用ひざるまわらむ。二人もて中老まよ
びし。南蛮勢あめりて地理を志らむ。却く銳氣を失へんと
ぞ。怕るゆへあり。趙雲が白く。まはしホは地理を志らば如何ん
孔明が白く。汝二人よくんを小ま女まらむ。動くまわれ。趙
雲まりてひて密に魏延と殺しける。我ホ二人困を生る時
先陣の將を承りあがら。却て地理を志らざる。今日用ひ
られざるへ。大なる羞めあらむや。魏延が白く。いざや二人を
下の勢を率し。ひてまの地乃をの捕。案内者し人
よりきたる敵の陣を破らん。趙雲げまもと同じ。の兵を
引て打出二三里をり。向を望を馬烟を立。南蛮勢
五六十騎がむと弛来る。趙雲魏延山の間。伏て前後より取

巻けし。南蛮の勢。まどろひて逃走る。蜀の勢。かひくけて生
擒も。趙雲魏延酒を飲せ。引生物とせ。路條と問。ま
南亦虫勢。その恩を感。まける。真先。金環三結。大
寨山。まふと兵を屯。東西。二條の路。わりて。五溪洞。り
通。何會。喃ホ。陣。も。相通。せり。趙雲魏延。ま。と。聞
て。卒。精兵。五千。余騎。を。率。し。生。捉。て。案内。者。と。し。て。その
夜の。三更。ま。打。立。月。と。ま。明。る。ま。り。け。し。ま。直。ま。金。環。三。結。が。陣
ま。い。り。け。る。と。ま。已。ま。四。更。の。比。ま。お。ま。び。南。蛮。の。勢。も。漸。く。起
あ。がり。て。兵。糧。を。使。ん。と。ま。趙。雲。魏。延。よ。ま。き。時。分。ぞ。と。喜。び
兩。方。よ。り。喊。を。と。り。と。造。て。攻。入。け。し。ま。南。蛮。勢。あ。め。ひ。も。よ。ら
ざる。と。あ。ま。び。以。て。の。外。ま。發。動。し。て。上。と。下。へ。と。反。し。ける。趙。雲

會通合三國志の編卷之五
五

直ち中軍を突て入り。大将金環三結を生合両馬相交り。一鎗を刺殺し。その首を取て縦横無碍に馳り。南蛮の勢大半討て。四方へ散と散乱を魏延一軍と引て。きまらぬ董茶奴が陣を打ひ。けし。趙雲も兵を引て。阿會南が陣を。おしよせける。夜もさや。おのぐと。ゆけり。魏延たぢ。董茶奴が陣の後より。攻けし。南蛮の兵と破ら。はじと。火華をちらして。戦ふ。又陣門乃前。喊を作りて。王平が勢と。馳来り。扱さんて。攻けれ。董茶奴が勢。おのぐ。乱きて。我さまよと。逃失ける。趙雲の兵を引て。阿會南の陣の後へ。生ける。蜀の大將馬忠己よ。その前と攻て。挑戦最中。ありけし。後より。喊を。のど

造り。蒐たりける。南蛮勢前後。度と失く。さんぐ。逃なけり。蜀の勢。おのぐ。打勝。おのぐ。軍と収めて。本陣を回。孔明を見。右の趣きを告げし。孔明問て曰く。三洞の蛮兵。尽く。敗乱を。大將を捕得。さある。趙雲と。あはち。金環三結。が首と生。く。第一の功と。詔し。けれ。魏延と。あ曰く。董茶奴。阿會南。二人の嶺と。超山を攀。く。逃去。たり。その。又。生捉。と。得。て。孔明笑。ひ。曰く。董茶奴。阿會南。へ。ま。よ。已。に。擒。め。せ。り。魏。大。將。を。信。と。せ。さ。る。不。な。志。を。く。わ。り。て。張。疑。の。董。茶。奴。を。生。捉。張。翼。へ。阿。會。南。と。生。取。引。て。帳。下。に。来。し。る。魏。人。と。あ。大。な。お。ど。ろ。く。孔。明。が。曰。く。我。呂。凱。が。繪。図。を。と。り。て。趙。雲。魏。延。を。励。し。深。く。重。地。に。入。り。ま。す。金。環。の。人。と。言。し。り。の。趙。雲。魏。延。を。励。し。深。く。重。地。に。入。り。ま。す。金。環。

三結陣を攻たぐち兵を分て左右の陣の後をひらんと量り
馬忠王平をその前と攻て前後より打破らしむ。その時趙雲魏
延もあらしむるを叶はしむ。又董茶奴阿會喃が必と山路よ
り走らんとして料り善て張嶷張翼を伏て山の間を待せ関
索を命とて若残るをあらへ討雷よと遣たり。諸人あをて地を
拜伏しく。丞相の兵機鬼神も測ぐごとぞ感しける孔明を
あかし董茶奴阿會喃を引生し。その繩を解免し酒を飲
せ衣服をたぬふく送回し。今より悪人を扶るとあられといひ
けしむ。二人涙をあじて徳を感し小路よりぞ回りける孔明
諸將をけりける。明日の早獲るるも自ら攻来るべし。計とも
ちひで擒めよとして趙雲魏延もあしむ。五千余騎をさしけ計

策を教へ王平関索もあしむ。一軍を典と計を授けしむ。皆相別
れて出まけり去程は南蛮王孟獲へ先陣の勝負まじし。ゆゑ三
洞の元帥とあ孔明を生捉し。その勢大半討しぬと告げし
べ自ら天軍を率し。打出ける。端ち。蜀の大將王平も出
あし。兩陣相對し。王平馬を出一。南蛮の勢を望む。百
騎の大將とあ。あやも出立し。兩辺を排列し。孟獲旗乃
下し。捲毛赤兎の馬と。あし。頭を七寶の紫金冠と。かき
身も。纓絡紅錦の袍を被て。腰に礮玉の獅子帯をけ。脚
に鷹鳥嘴。抹緑の靴を穿ち。松紋廂室の劍をけ。昂然として
左右を顧み。人々孔明が兵を用ゆると神通を得たりと云
が。今その勢をえる。旗の色も。その色も。行伍紛々として。一

新編通鑑三國志六續卷之五

勝たるとは難く陣を進んで奴原を蹴散さんといひけしを。南蛮の大將は北牙長といふもの藉刀を打振り黄驃馬を馳せて討て蒐り玉平と五六合たつひける玉平詠り負て逃ければ孟獲金名ひに乗る追蒐るる関索一軍を引く迎戦ひ又とゆみ詠り負て走りけし孟獲兵を誣て息をも継ぎ二十里余り追るる忽然として喊の声起り左は張疑右は張翼二手の勢討て出南蛮勢の後を遮りけし玉平関索も一度は取て回し夾さんで攻たりける南蛮の勢前後は度と失ひさんぐ乱て討るるもの麻を散せるが如かりし孟獲をくく圍ていひ錦帯山をさしく走ける跡あり蜀の勢喊を造りて追駈るといふ走ると二三里より谷の内より一彪の軍馬討て出文字

は路をよま切て蜀の大將趙雲まのさた馬を出しければ孟獲大におどろき急み路を易て小路より走らんとなすを趙雲とつと喚ひて蒐たりし南蛮の勢大半討て生取るるもの叔をまらむ孟獲へ死戦しく逃れ生取れ十騎を引く走りけるが後より敵の追と急みし路へ抜しを金さるるあつし馬に乗ると木根岩の接み柵に付嶺を越え逃けるも忽ち谷の内より鼓の音地を動して魏延五百余騎出てけし四方より取巻て卒に一人も漏さず生捉けり孔明へはのと本陣酒宴を設けいろくの肴を用意して帳上帳下は鎗を列ね戦を立其光氷雪の涼たるがどく右は御林の精兵を排して十人

繪本通鑑三國志卷之五

の八

魏延
魏延之五獲
魏延之五獲



五獲

魏延

魏延傳卷之五



伏勢

會本編卷之五

威を逞志ふ。生捉とる。南蛮の軍兵をよび出し。尽くその繩を
き放して。かけらへ。汝ホ元より罪あらむ。孟獲を誅つて。是
のどく。生捉きたり。汝ホが父母妻子を。お門より。回せの
ぞ。いまだ。若い。生取きたる。せまらぶ。血を流して。泣きま
る。と。放して。汝ホを。回ら。し。必を。再び。悪人を。助る。と
あられて。酒を。飲せ。糧を。典。回し。ければ。南蛮の。軍民。其恩
を。感。お。涙を。あ。び。して。去。け。る。次。武士。とも。孟獲。を。ひ。ま
出。し。ければ。孔明。が。ける。先帝。常。汝。を。憐。れ。し。と。薄。ら
む。何。と。又。謀。反。せ。る。ぞ。孟獲。が。白。く。兩川。の。地。へ。元。來。他人。の
物。ち。る。を。汝。が。主人。と。だ。り。逆。威。を。震。て。奪。ひ。取。り。ま。は。せ。し。世
ま。の。國。を。保。つ。汝。ホ。無。禮。い。ま。ま。べ。塚。を。犯。せ。る。然。又。却。て。ま。を

謀。反。と。い。ふ。何。事。ぞ。孔明。が。白。く。ま。は。巴。に。汝。を。擒。み。汝。が。ん
ま。は。服。や。る。孟獲。が。白。く。錦。帯。山。の。路。狭。く。誤。り。て。汝
ま。生。捉。きた。り。ま。が。ん。ま。ん。で。服。せ。ん。孔明。が。白。く。汝。服。せ。ま。ん
ば。ま。は。放。し。て。回。ら。し。ん。へ。如何。に。孟獲。が。白。く。汝。り。ま。は。ま。を
放。さ。べ。我。も。兵。を。と。り。共。に。雌。雄。を。決。ま。し。重。傷。て。ま。を
を。生。捉。べ。我。ん。を。傾。け。て。汝。に。服。せ。ん。孔明。が。白。く。今。汝。を。放。し
て。回。ら。し。む。再。び。兵。を。整。へ。來。ま。し。て。その。繩。を。解。て。衣。裳。を。あ
た。く。酒。を。飲。せ。し。送。て。ぞ。回。し。ける。蜀。の。諸。將。を。見。て。孟獲
は。南。蛮。の。国。王。の。ま。ま。幸。ひ。擒。ま。し。て。又。放。し。し。何。ゆ。ぞ。と。問。け。れ。ば
孔明。が。白。く。我。の。ま。の。を。生。捉。し。と。囊。の中。より。物。を。取。出。し
て。其。心。を。服。せ。し。ま。べ。自。ら。平。安。あ。ら。ん。汝。ホ。あ。や。む。と。あ。れ

會入編卷之三

といひけり。諸人あ入り。その意をきき。冷笑ひて。退きけり。

孔明二擒孟獲

南蛮王子孟獲。孔明を放さして。瀘水の辺まで来り。敗軍の士卒。あつさり。弛集り。大王の命を以て。回り入り。問はば。孟獲答て曰く。難所を行。結て蜀の勢。生取をける。夜入りて。我々の番の者ども。十余人を打殺し。忍び出て。走りける。一手の軍馬路を塞ぎ。我々のうち。打破て。八方へけちら。是馬を奪て。逃れ来り。南蛮の勢。たつち喜ひ。相扶けて。瀘水を渡り。陣屋を構て。諸洞の大將をまねき。ければ。四方より。相集て。程ち。又十万余騎。あつさり。いけり。此と見。董

茶奴阿會喃。洞中を回りける。孟獲使をのりて。寄け。孟獲。孔明が計をきき。只戦さる。若くは。戦と見れば。彼が計と。中る蜀の勢。来る。炎天の暑気。あつて。安んぞ。く。留る。と。得ん。瀘水を前。岸の上。堀をぬり。城を構て。堅く守り。出て戦ふ。如何なる。孔明。あつり。争。怖。べき。いひ。ま。れ。諸人。を。た。は。し。從。ひ。船。筏。を。南。の。岸。の。山。を。以。崖。より。高く。長。城。を。ま。き。け。き。矢。倉。と。堅。て。その。上。に。鉄。炮。弩。と。殺。け。多。の。兵。糧。を。運。送。し。て。十。分。堅。固。に。備。り。け。れ。ば。孟。獲。大。に。喜。び。万。全。の。計。と。く。ぞ。あ。つ。ひ。ける。此。と。見。孔。明。大。軍。を。率。し。て。進。発。し。ける。が。

先陣とて瀘水の岸に到り南の方を望みれば水の勢ひ甚
 急なり。白波天に漲り岸の額二帯の長城を築き所こ
 矢倉を立て逆茂木まじりけたり。況や時を以て五月の
 末よあよんを南方の地へ暑気まると甚ばく。人をお甲せまる
 ことよ克ざりけし敵の十の九は守たると見て退屈せ
 ざるとのふきは孔明さるとまいて自ら瀘水の辺に來り敵
 の体と望見して本陣を回り。諸將を令て傳て曰く。今子無獲城
 を搆てよと拒ぐ。我まてをまのなまて來てあは打棄てい
 げらう回らんや汝ホとあ山より。林を以て涼くらん不と。えら
 んでまづらく人馬を休よ幸よ呂凱へ安内者之林木の茂れる
 陰を陣屋を搆よ。命つけられ呂凱よく地理を考へ瀘水と

百里をかり隔て。諸大将の陣屋と連糸棚の上草を掩て炎
 天の暑気をも志のだけける。參軍蔣琬まてをえ孔明を
 へ某いま諸大将の陣取をえん山に依林を傍く。昔日先帝
 の吳の陸遜を破られし陣を似り。若南蛮の勢ひを瀘
 水を渡り火を付て攻來らば如何と拒ぎつらん孔明笑
 ひて曰く。まて汝が志あるああらむ。我まての計ありと死
 野の都より大将馬岱暑気を拂蕩と兵糧米とを送りま
 たまると報つけられ孔明やがて對面し都の無事なるを問
 てまの薬を諸軍に分ち汝いり程の勢をひまに來まると問
 ぬ馬岱が曰く。三千余騎を引ひ來まると孔明が曰く。まが勢を
 間の戦ひよてく疲れとり。汝新手を引て先手を進ん馬岱



馬岱夾山谷
屯兵垂國乃
兵糧とろ

流沙口より。渡ける。果して。羨ましく。南の岸へ着みける。馬岱
らたり。喜び。孔明が授たる。繪圖を。千余騎の精兵
を率し。土人を案内者として。直に洞中より。兵糧を運ぶ
路。出づる。路。西方。高く聳たる。大山。中。一川の細路。二
人相双。でも。通つ。び。あり。け。と。岩。と。陣。を。取
けり。世。と。南。蛮。の。勢。の。夢。み。を。ま。を。兵。糧。を。運。び
来ける。馬岱。が。勢。の。前後。を。遮。られ。さ。ん。ぐ。を。走。り。け。れ。を。
馬岱。と。兵。糧。の。車。百。輛。を。奪。ひ。得。り。孟。獲。の。南
岸。の。城。あり。て。日夜。酒。を。飲。で。軍。務。を。理。や。も。諸。人。の。心
を。下。ける。我。は。孔明。と。戦。つ。か。ら。む。と。彼。が。計。中。ら。ん。の。ぬ
まの。瀘。水。の。險。阻。を。守。て。あ。ん。か。と。戦。を。是。を。あ。い。き。暑

氣を受けて。軍。何。ま。で。休。む。近。き。内。の。か。ら。走。り。去。を。
と。と。の。と。れ。追。討。せ。ば。必。ず。孔明。と。生。捉。へ。し。て。手。を。拍。て。大。う
笑。し。時。一。人。と。み。生。流。沙。の。渡。の。水。を。ま。を。淺。し。蜀。の。勢。を。ま。わ
た。ら。べ。味。方。の。為。に。害。を。受。る。一。軍。を。分。て。守。ら。し。め。と。云。け。れ。た。
孟。獲。笑。ひ。て。曰。く。汝。の。地。に。住。居。し。て。何。と。も。志。ら。ぬ。ぞ。我。の。あ。い
蜀。の。勢。の。瀘。水。を。渡。り。て。皆。水。中。に。死。ん。と。を。終。る。又。一。人。進。出。て
曰。く。瀘。水。に。ま。毒。氣。を。ま。り。し。り。ん。ど。も。若。夜。渡。る。と。て。教。は。如。何。ん
孟。獲。が。白。く。も。領。内。の。人。の。心。を。他。國。の。敵。に。ま。り。し。と。教。へ。み。ら。ま
ら。む。畏。る。と。も。あ。れ。時。早。馬。を。た。り。蜀。の。勢。多。少。の。志。ら。む。を。ひ。を
瀘。水。を。渡。り。夾。山。の。谷。に。屯。し。平。北。將。軍。馬。岱。が。旗。を。奉。て
兵。糧。の。道。を。塞。げ。り。と。告。げ。し。孟。獲。笑。ひ。て。曰。く。量。は。ま。の。小

會大... 三... 五

輩ある程のりらわらし只蹴散して棄てて大將壯牙長
 三千余騎を興く。夾山へむく。馬岱の敵の来るを以て兵を
 山の前に出しければ壯牙長鎗を以て突つて突つて西馬相交
 り。馬岱の刀を斬りけり南蛮の勢大將を討れてる。ハ林
 へまきさへく。走て逃回り。孟獲を見く。右のおひききて告げ
 れば孟獲諸將を呼んでけり。たゞ行て馬岱を破らん。董
 茶奴が曰く。某物ぞくを行ん。孟獲大を喜び。三千余騎を興
 て。いへ。又蜀軍の瀘水を渡らん。と。拍と。何會南。三千
 余騎を付て。流砂口を守らせける。董茶奴兵を引て。まて。ま
 夾山谷。向ひければ馬岱も山の前に討て。生れ。董茶奴
 が。方ちりと。告る。ものめり。ければ馬岱馬を。出。大音あげ恩

を忘る。義を背くの賊を丞相さまに汝を命を扶けり。汝又羞
 をも。志らざりて。来。ま。か。と。ぶ。り。けれ。董茶奴慙愧して。谷
 へ。ま。初。く。戦。む。り。退。ま。け。る。馬岱追うけて。四角八方へ切
 散。董茶奴回りて。孟獲を見。馬岱が英雄。當る。心。ら。ざ。と。
 い。ひ。け。れ。孟獲怒りて曰く。ま。ま。汝が陣を賣の計を志
 不。汝。ま。ま。孔明が恩を受たりしゆ。今戦をむく。退。ま。たり
 と。引。出。し。斬。志。や。んと。ま。る。と。諸人再三命を乞ければ孟
 獲。孟。其。命。を。扶。け。根。を。の。背。を。百。杖。ぞ。打。せ。け。る。董
 茶奴。い。く。責。ら。ま。て。我。陣。を。回。り。け。れ。孟。大。將。を。尽。く。来。り。あ
 け。り。て。曰。く。ま。亦。蛮。方。を。居。と。い。ども。卒。に。中。國。を。犯。す。と
 は。ま。の。人。中。國。又。が。堺。を。犯。す。と。あ。り。ま。孟。獲。狼。を。

持てぞひきく我亦を催しき。浩る大乱を引生せり。况や孔明が。計畧の鬼神も測るて克む。魏の曹操吳の孫權だもいとて怕る。もとホ蛮夷の徒いぞ。是れ及ぶまき孔明と我亦が命を扶けし恩あり。倡や孟獲を殺して孔明を降り百姓の塗炭を救べし。董茶奴が曰く汝ホ諸軍のんへいふその勢をホ孔明も免されたる者共ちりけむ。皆同音も秘ぐく。ちり孟獲を殺して禍を免まんと。董茶奴大に喜び手と劍を提げ。百余人を引て本陣を走り入る。まのとちり孟獲へ前後も志らむ。帳中へ伏て。猛將二人傍へ立けむ。董茶奴が曰く汝ホも孔明の恩を受たるもの。如何も。且も。其の百姓の禍を除んや。二人の猛將答て曰く。もとホゆと。まの

らあり。將軍の手を下し。ゆも。及む。其まの孟獲を擒む。せんとて。押く繩をうけたり。董茶奴いそぎ舟に乗て。瀧水を渡り。蜀の陣を引行く。孔明の由を探りまて。諸將も下知て傳て陣へ兵を整置せま。董茶奴や中軍を引て對面し。其子細を問て。一は恩賞を與てま。洞中へ回らし。次も孟獲を引出させ孔明笑ひて。ゆけるへ汝きたる再びいけ取らば。降らんと。いひり。今日如何ん。孟獲が曰く。まは汝を生取れたる。あらむ。我手下の者。ゆら。ゆを仕生し。此のど。ゆが。ん。ち。ん。ぞ。服せん。孔明が曰く。まは。又。汝を。放さ。べ。い。らん。孟獲が曰く。まは。南。蛮。の。夷。ま。も。善。兵。法。を。通。む。今。ゆ。放。し。ま。洞。中。へ。回。り。て。勢。を。集。ち。決。く。勝。負。を。決。せん。其。と。た。又。生

取まべ我んや傾けて。汝も服し。久く又背とあけん孔明曰く我
重て生捉く。汝又服せんとを決して。軽くく宵とある。ふ
べとて兵も命とて縋せとせ酒を吞せて。中けるへ我とて草
の廬と出てより。戦ふも勝むといふとち。攻るも取と。いふとま
し。汝蛮夷の人ちんぞ早く服せざる。孟獲黙然として。谷ざり
まふ孔明とあち引く馬もせ。諸大將の陣屋を打巡り兵糧
山のどく。軍器霜とさじ。板十万の精兵甲の袖を列。祿盛と耀
かしく。威風凜たるを。とせ孟獲みむ。いけて。汝服せざる
の真の愚人あり。我此のどまろ精兵あり。汝争勝とを得ん。若
もや服せざる。天子を奏して。汝を困玉に封じ。子孫長く
南蛮を領せしめん。孟獲曰く。某いま服とんけ。ととも洞中ら

人い。まどあてくんと安んぜむ。丞相も某を放し。多つて百姓を
率て。とりも服せん孔明忻然と。又中軍を回り。酒宴を
設けて。持は。晩におよんで自ら瀘水の岸まで送り。船を
いひて。扶け回らしむ。

孔明三擒孟獲

孟獲本陣を回り。その夜夜百人の兵と伏し。董荼奴何會喃
ホと。殺さんと計り孔明が方より。使あり。早く本陣を来れ
と。いひ遣ければ。三人忽ち来りける。合図の鉄炮を鳴し。と。
伏兵一度も起り。尽く殺して。屍を谷の内へ棄させ。諸將を
分て要害を守り。自ら夾山谷をむらめて。馬岱と戦ふんとする
蜀の勢一人も。とくざりく。處處の者とよんで尋る。昨夜と

瀘水と渡りて回ぬと申す。子孟獲本陣を回り弟の子孟優と
 申す。孔明が陣中の虚実を明くよき事なり。汝
 の計を行へと。さやたけし孟優とて。孟優は孟獲の強
 の精兵百余人を扱んで。金銀珠寶の類と持せ瀘水と
 申す。孔明が陣を。おのむらんとする。岸の辺より。鼓角を鳴し
 て。一彪の軍馬打て出蜀の大將馬岱。一文字の路をよま切
 けし。孟優おどろき怖れ。降参の由を。馬岱先子孟優
 と外より。おれ人を走らしめ。右の趣きと告げし。孔明おのれ
 諸將と計とを。義しけるが。おの由を聞て。馬禰を問て。け
 る。汝おれを。おれりや。馬禰が曰く。言を。おのて。伸が。書付
 て。おせ。さん。と。紙筆と求め。書て。孔明おせ。けし。孔明

おれを。おて。大に笑ひ。手を拍て。けし。孟獲を。擒め。おの計
 と。お。已に。定置り。汝が。意見よく。我を。合り。おて。先趙雲と。よ
 び。お。計とを。授け。又魏延を。呼で。計とを。さ。や。き。次。王
 平馬忠。関索と。お。お。分付し。了り。子孟優を。お。入と。
 對面し。けし。孟獲地を。拜伏し。曰く。某が。兄孟獲。深。丞相
 の。恩を。被り。某。命。お。先。金銀。宝貝。を。献ら。し。自。天子
 の。貢物。と。さ。げ。て。跡。より。来り。降ら。んと。お。願。く。長。く。服。し。え
 背。を。お。け。孔明。が。曰く。汝が。兄。今。何。も。ある。孟優。が。曰く。銀
 坑。山。を。入。て。種。の。珍。宝。を。お。取。来。て。天子。を。献。ら。んと。お。孔
 明。が。曰く。今。汝。を。從。ひ。来。し。る。もの。何。ち。ど。ある。孟優。が。曰く。お。の
 二百。余人。あり。と。お。せ。し。も。皆。お。の。宝。を。運。ぶ。士卒。あり。孔明。お。



ち尽くや入て。まをこる。皆黒き面にて紫きの毛生て眼の
中青く。耳に金環をたきて。身長く力強き。ものどもちりけれ
べ傍に坐せしめて。酒を飲せ孔明。いづから孟優と笑ひ樂ん
で。酒宴叔刺におよびける。孟獲本陣ありて。孟優が合図
を待ける。ちち士卒二人をせ回り。孔明とて。禮物を
受て。実ちりと喜び中軍にまゝ入て。酒宴を設けて持成
ひ。まをよみて。孟優ひそり。其のひて。大王に告知さし。今
夜の二更に大軍を引て。おしよせ。内よりも攻合せて。同時孔
明を生捉へし。云けし。孟獲志をまたりと喜び。三方余騎の
精兵を揃へ。三手よけ。お硫黄焰硝の類を持せ。蜀の陣
に火を付て。孔明を生取んと。約をま。日暮より打起し。志の

びやう。瀘水を渡り自ら猛將百餘騎を引て。蜀の陣に打向ひ
ける。敵一人も出ざり。馬を飛して中軍へ入ける。燭の光
白日のどく。孟優を始として。手下の兵とて。酔臥たり。是
元より孔明が計にて。馬獲ホ樂人の雜ひて。殷勤に酒をま
酒の中。孟獲を入置た。南蛮の兵も酔倒して死せらる。ま
とくちり。子孟獲の体をたて。まの如何と。まをこ。引起して
問んと。されども人心地あるもの。さらま。其内。また一人を
醒たるもの。わの口手をひて。口を教けし。孔明が計に
中より。弟を救ひ出さんと。まをこ。た。勿心然として。喊のまを
ひき。三手の軍馬討て。出蜀の大將王平鎗をひ。徑ひて突て。わ
孟獲怕を。まをこ。散て。乱して。走りければ。左の方より。一手乃

兵討く出蜀の大將魏延いまちひに乗て蒐たりし南蛮の兵討くと叔を志らむ我とたふと逃るる又右の陣より喊とんとあけて火の光天地をくかた蜀の大將趙雲一軍をうけし勇を振て攻とりし孟獲三方より包まれて只一騎をうくし圍を生瀧水の上下をせ廻て舟やあると尋るる岸をみて一艘の小舟あり南蛮の勢五六十人取乘たり是天の助ありと喜びいそと飛のりてち早く舟を出せといふ舟の中なる兵ども忽ち孟獲を取て引伏せ卒に繩をうけたりける元來孔明が訂みて馬岱手下の兵を引て南蛮の勢を仕て夜中まよと偽を分ちたりと料りたる舟を浮せて相待ける孔明本陣ありて生取を尽く引出させ酒をのみ

せて送り回し次孟獲を引出させ笑ひて引ける汝まがいはりて弟を降人に出しをて引出し内外より攻んと計り今已に擒せし汝がんとは服せよ孟獲が曰く是は弟の孟獲が食物をむさぶりて殺つて毒の中り酔倒れて計を仕損トたるめんち我は外より攻て弟は内より應ぜむ必む大に打勝んされ天より敗るるも負たる有む安んぞ服せむ孔明が曰く是は已に三度まで汝を生きたる仁義をのりて放せといふも猶服せざる何とぞ孟獲首を低て答ざりけし孔明笑ひて曰く是は又汝を放して回志らん孟獲が曰く丞相は弟を放さば一族諸將をあめり快く一合戦しとのち又生取せむとておち力尽る

へららむを。んを傾けて服とん。孔明が曰く。重く生取べ決くと
 軽く。想はじ。汝よくんを小く軍書考へ再び兵を整来
 れ必も後悔るとあるれとて。尽く放しけし。孟獲孟優拜
 謝して回り。巴の瀘水を渡ける。岷の上の色々の旗風
 ひるがりて。蜀の大將馬岱陣前高坐し。手を剣を把り。孟
 獲をさし。孟獲おそれ愕き。巴の陣中へ逃入んとする。蜀の大將
 趙雲とて。奪取旗を立。武具を列。營前へ立出。丞相
 くのとて。大恩を施す。汝ららむを忘るるのあれと云けし。孟
 獲急し。引回し。山路より走らんとする。蜀の大將魏延千余
 騎を引。堤の上へ陣を取。刀を提げて。色を励し。今已にふらぐ。

汝が巢へ入る。汝ららむを迷を執て。まが大軍を拒ぐんとする。
 重く生取べ決くとす。刺し。ひけし。孟獲勝て
 冷し。頭を抱く。鼠の窟ごとく。回りけし。孔明へ瀘水を渡
 りて。南の岸へ陣を取。大に謀軍を勞ひ。謀將をむ。曰く。
 孟獲を。三が度。皆義をわめ。放し
 たり。され元恩をわめ。蛮夷のんをむ。其自ら乱るを
 待ん。為ち。初。孟獲を引。味方の陣を巡り。兵糧
 武具の多きを。せせとる。彼ららむ。火をうけて。攻破んと。ん
 起ん。とを思ひ。果し。孟獲を。其心。たや。らむ。
 祇めて。弟を降し。内外より。攻んと。我。擒り。殺さ。り
 へ。只心を傾けて。彼が服とる。待まの。尽く。殺し。其種類

を遺さるる仁者の為さるる本之馬殺が意見ありと同日今是
又汝亦結るるれらぎ勞を辞せむ国の為と思を報ぜよと
云けむ諸人拜伏して曰く丞相の智仁勇大公望張良も争
ちよむ孔明が白くも安んぞ古の人を慕ふ偏に諸將の力
を恃るとして酒宴を設けて悦びをあたふ

孔明四擒孟獲

孟獲三度まで生捉はるとの内をたゞ慙愧し八番九十三回
洞主の金銀を送りて叔十万の兵を借程なく雲霞のてく
あつたりけむ日々に扱んで蜀の陣を攻めんとす細作のよ
やく孔明を告げると孔明大笑ひて曰く南蛮の勢遠近より
集るる我もとすの願ありと云ふも能をえせしめん

いづら四輪の車を推せて出ける前より河ありて西洱河と名く
水の勢緩しとくも船筏あつりけむ其辺の木を伐て筏
を渡さんとする其木を沈めけり孔明と話をえて呂凱を
やしていづらてこの河を渡らんといふ呂凱中ける其久く
西洱河の上より山ありて大竹おほしといふと傳聞り人を遣
て木を伐せ浮橋を作つて渡さん孔明いそぎ三方人を
水上に遣し大竹を伐流して廣さ十丈あまりの浮橋を作り
大軍を北の岸に揃て河を渡りて暫しは一面に長城をまはへ
南の岸にも大なる陣屋を三ヶ所立て敵の来ると相待けり此
とて孟獲は自三方余騎の精兵を引いて先陣をまわし身は犀の
皮の甲を着左の手は楯をもち右の手は劍をさし赤毛の牛に乗

て威風あたりを拂ひて之けし孔明四輪の車を引回し陣中
 へ入て固守る南蛮の勢をまへて往來し赤裸なる陣門の
 前より種々罵けし蜀の諸將とて孔明を見て戦を
 んとせ給ぐ孔明あて許さしし諸將の曰く蛮夷の奴原余
 り我ホを辱む討て出てけちらき孔明又とて曰く南蛮の
 人ひはく王化順む今も寄來て狂惡と盛よを討ん
 として戦味方もあち損をて只固く守て出るとち日と経
 て彼ホが怠るとを伺ひ我又計をのりて破るるとして自ら高
 きる上りて望るる日ありて南蛮の勢も勇氣たぬと
 久即ち諸將を集て曰く汝ホ出て戦べき諸將折んで出んと
 請けし孔明まづ趙雲魏延をよび寄耳を付て計を授け王

平馬忠と呼んで計を授け次馬岱を呼んで曰く今この
 三が私の陣をたてて河より北へ退くべし汝の浮橋を河の下
 へ移し趙雲魏延を渡して後同く河を渡してゆくよ又張翼と
 して曰く我が勢を退ひて北の岸より汝の陣中へ多
 燈火をととり置孟獲とてよとて却て追來べし汝密
 かに敵の後を遮るとて一手分りけし孔明四輪の車
 みのり関索を従て河の北へ退きける是と南蛮の勢は
 日罵の陣を寄せども敵一人も出ざりけし皆疑いあらず
 なる夜の陣中へびびく燈火を引て星斗の欄干なるごとく
 ありし急の由を孟獲は報を夜明て孟獲の軍を
 引ひ來り罵の陣をたてし三が私の陣中へ人馬ありとて之を



孔明陥坑の
計とありく
四度孟獲
と擒す

たぐ板百輛の車に兵糧を積んで、あつと置たり。孟優が曰く。孔明は陣をたて去り必とて大なる計あらん。孟獲笑ひて曰く。量よ今孔明が陣屋をたてて退く必とて本國は大変あるらん。吳より攻るる魏より攻るる。此二つを逃すは、此の人の昨夜もあつと燈火を列ねて疑兵の計とほし取らぬも、さうあつと兵糧も奔去り早く追うけり。一騎もあつとて討取して自ら真先とて、西洱河の端より向の岸と望み、こゝへ一帯の長城と築く。板百輛を矢倉と立いろくの旗とあげて、鎗戟の光目もあつと。近付きやうぞあつとける。南蛮勢案も相違して、あつと進んぬもせざり。孟獲弟もあつとて曰く。孔明の計深き者あるべし。と示さるる追ふとと怖れて、北の岸も踏止るといふも一

兩日の内へ必とて走るべしとて、兵も命とて竹や伐せ、筏を作し、北へ渡らん。用意して却て蜀の勢も其後へ廻るとを知らざりけり。其日俄も狂風吹起りて、石も飛り、砂もひるがへしければ、南蛮勢敵の奔り、陣中へ入るとも、忽然として四方より火を付、蜀の勢鼓をあらうとて討て出けり。南蛮勢もあつと乱れて踏殺さるる。やの板をまらさむ。孟獲一族も引具へ敵の圍を突て、本陣も回らん。とされ、陣中より喊をよめ、作て蜀の大將趙雲兵を引て殺到す。孟獲魂を失ひ、西洱河の傍より山路をさし、走らんとされ、又一手の勢討て出、蜀の大將馬岱、色も余はじと探たりける。孟獲板十騎を引て、もうぐと逃出谷の中へ走けるが、南西北の三方火の光

天を焦して馬烟をびじく起りて東をばして落行山の腰
を轉つて向をまのりたる深き林の内より蜀の兵數十人二輛
の四輪車をかき出し車の上より孔明綸巾をかき鶴氈を着て
手より羽扇を揺らし大に笑ひていづる孟獲をもと久しく去のる様
待とよがりけし孟獲左右を顧て曰く我々の人乃計ありて
三度まで羞と得たり。今幸また出て生れぬ汝ホカを尽して人も車
も微塵もまよやとして一度も喊をぞいと造り漣せ双と蒐なりけ
るが勿心ち天地も崩るるごとく陷坑の中より落ちて上と下と蠢ま
けるを魏延叔百騎を打て林の内よりけし生卒も人も残さを
生取けり孔明の陣より本陣より回り生捉を引出し酒を飲せんと
放して回しけるる張翼も引く孟優を縛来りし孔明

が曰く汝が兄迷を執てもも服せむ已に四度まで生取きた
り何の面目ありて人を見ん汝よく諫て返らむむることあり
孟優大に慙愧し地を伏して命乞けし孔明曰く我
汝を殺すとぞ今日あらむ今さうらう放して回らむむことあり
も孟獲を諫めよとて武士を命とて其繩をとむせ送生して
回しければ孟優涙を流し拝謝して去りける次孟獲を
引出しけし孔明怒て曰く匹夫又もと生取し何の理
ありける口を閉ん孟獲が曰くも今誤りて詭りの計の中
にありたといひ死をも目と塞し孔明武士を下知し引出して
切しめんとする孟獲をばも怖る色る孔明を顧てゆ
再びとて放さむ必む四度の恨と雪んと云けし孔明大に

笑ひ。その繩なはで鮮あま兎うさぎさせ酒さけを飲のめて問とて曰いく我われまで四よ度どまで女をんなを生い取とる女をんなの服ふくせざ孟もう獲くわくが曰いく。孟もう獲くわくの
人ひとの女をんなの丞じやう相さうの如ごとく詐いつはりの計はかりを施あづかりてと克かへさ我われちんぞ
服ふくをんき孔明こうめいが曰いく。今いま又また放はなして回まわらまわん女をんな又また戦いくさふんぞ
孟もう獲くわくが曰いく。若も重じゆう福ふくて生い取とる女をんなで我われちんぞんぞ傾かたけて
服ふく。誓ちか言ごて長ながく及およばし孔明こうめい馬うまを與あづかり送り生いけられ孟もう
獲くわく拜まが謝あやまりて回まわりて

繪本通俗三國志六編卷之五終

